



黒坂 麻衣 個展 ―夢の中の風景―

島本理生 著 「匿名者のためのスピカ」の装丁作品 祥文社

Retrospective Exhibition by **Mai Kurosaka**

黒坂 麻衣 個展

夢の中の風景 -Sceneries in her dreams -

2021 年 6 月 30 日 (水) —7 月 11 日 (日) 会期中無休

11:00—19:00

スパイラルガーデン (スパイラル 1F)

東京都港区南青山 5-6-23 (地下鉄・表参道駅 B1/B3 出口)

入場無料 (Admission Free)

(お問合せ) YUKI-SIS 寺嶋 由起

東京都中央区日本橋本町 3-2-12 日本橋小楼 202 03-5542-1669

info@yuki-sis.com <http://yuki-sis.com>

3-2-12 # 202, Nihonbashi Honcho, Chuoh-ku, Tokyo

103-0023, JAPAN +81(0)3 5542 1669

2019 年 5 月に急逝された黒坂麻衣さんの回顧展を、この度青山のスパイラルガーデンにて、開催することになりました。

1986 年青森生まれの黒坂麻衣は、2008 年多摩美術大学絵画科油画専攻を卒業。イラストレーターとして活躍の傍ら、日本橋三越前にあるギャラリー、YUKI-SIS にて 3 度の個展を開催。

2019 年 5 月に急逝された黒坂麻衣さんの回顧展を、2020 年 2 月、当時はコロナウィルスがまだ発見されたばかりで、どんなものなのかがわからなかった時期に日本橋三越前の YUKI-SIS にて開催しました。彼女のアトリエには、次回の個展用

に用意された作品が多数残されており、その作品を中心とした個展には、SNSでの発信、ラジオをはじめyahoo news、文春オンラインなどでもご紹介されたこともあり、全国から多くのファンの方々が集まり、72点展示した作品は完売しました。

その後コロナウィルスが蔓延、緊急事態宣言が発せられた頃、CASA BRUTUSなどで彼女の作品が大きく取り上げられ、その結果展覧会を見ることができなかった方々からたくさんのお問い合わせが集まりました。

2020年5月に納骨され、7月にお墓参りに伺った際、彼女のアトリエからあらたに200点近い作品が見つかりました。

「あの子は描くことで癒されていたように思います。“私には絵を描くということがあってよかった”、といつも言っていました。」
(黒坂さんのお母様の)

ご遺族の、「残された作品をできるだけ多くの方々に見てほしい、麻衣の絵を忘れないでほしい」とのご希望により、回顧展を再び開催することとなりました。株式会社ワコールアートセンターの会場ご協力により、黒坂さんが大好きだったスパイラルガーデンでの黒坂麻衣個展が実現します。

黒坂麻衣について

画家としてだけでなく、イラストレーターとしても活躍。既視感を思わせるような叙情的な空気感、映画の1シーンのようなさりげない風景や人の表情には、観るものの心を揺さぶる魅力がありました。語り過ぎず、彼女の目に映った景色や情景を、彼女自身がまるで器になったかのように、抑えた口調で語りかけるような絵でした。

幼少期を北海道で育った彼女の原風景から繰り返し描かれる、「馬」「白鳥」「小鹿」は、彼女の純粋な内面を映し出していました。以前彼女に、馬の作品は黒坂さん自身のポートレートみたいね、と伝えたことがあります。乗馬をやっていた時期もあるそうで、彼女はそのときも静かに微笑んでいたように思います。彼女の描く馬、鹿、白鳥は、彼らが住む平穏な世界から、まるでこちらの人間界を覗いているような視点でした。それは彼女の内面と外界との関係と重なったのかもしれません。

「幼少期から絵を描くことが好きで、内向的な性格だったこともあり、絵を描くことで外界との接点を見出してきたようです」
(黒坂さんのお母様)

アトリエに残された165点の作品を7つのカテゴリーで展示

イラストレーターとして、主に広告や本の装丁などでも活動していた黒坂麻衣さんですが、描く作品はいくつかのカテゴリーがあったように感じられます。そのカテゴリー別に作品をご紹介しますことで、黒坂さんの人物像が見えてくるかもしれません。

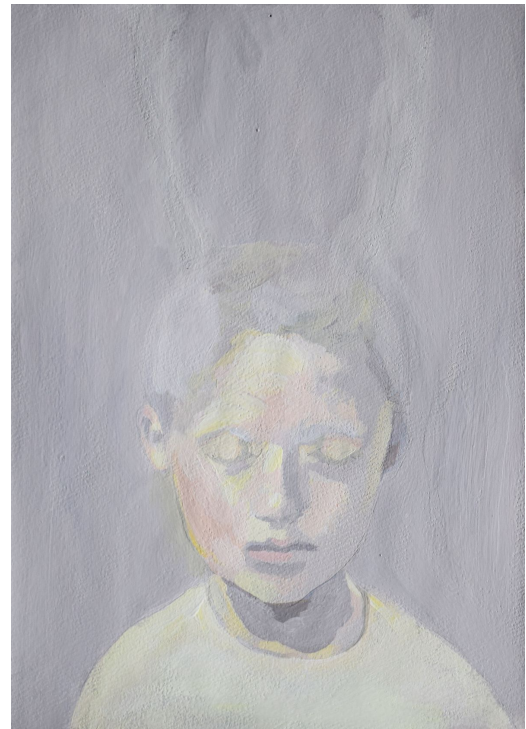
1. 擬人化した動物、動物化した人物

角の生えた少年、服をきてたたずむ鹿や狼。動物を擬人化させたり、人間を動物化させた作品を数多く残しています。純粋すぎて人間の世界で生きていくのがつらかったのでしょうか。動物のウソのない存在に身をよせたかったのでしょうか。逆に動物に擬人化したシチュエーションを与えたのはどうしてなのでしょう。

静かにその絵を見ていると、現実から束の間離れられるような、心の居場所を変えることで一息つけるような気分を感じます。



28.



33.



37.

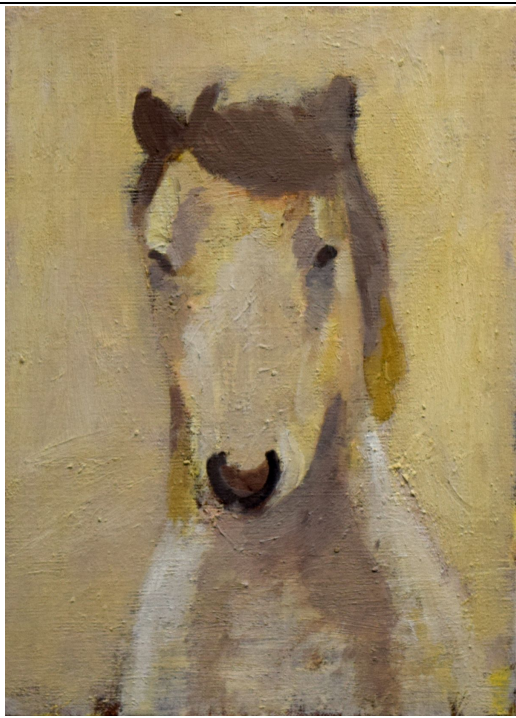


38.

2. 馬

繰り返し描かれた馬の存在は、彼女にとってどんな存在だったのでしょうか。

幼少期から乗馬などで慣れ親しんだ馬は、彼女を守ってくれる憧れの存在でもあり、彼女自身のセルフポートレートのようにも思えます。馬のいる景色には、攻め立てる存在はおらず、静かで温和な世界が広がります。孤独にみえながらも、伸びやかな平和な楽園のような場所。彼女が馬を描くことで、自分の精神性をその場所に置く事で平安を感じていたように思えます。



1.



49.



48.



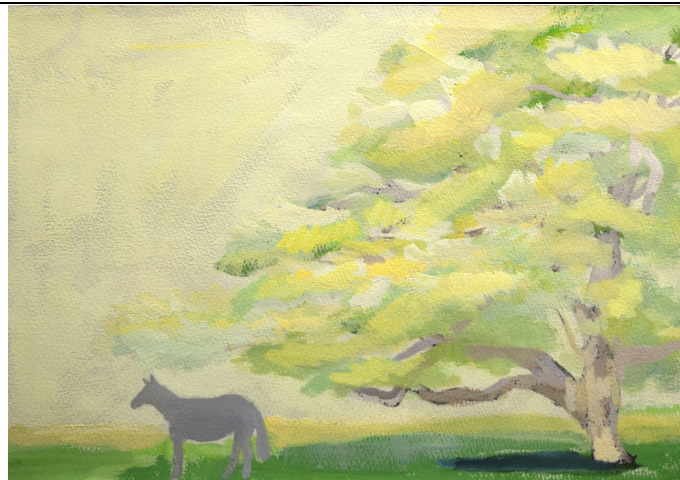
53.

3. 動物や森がでてくる作品

青森出身、北海道育ち。幼少期に乗馬クラブに通っていた経験や、豊かな自然の中で育った環境の影響もあり、馬や鹿、白鳥、森など繰り返し描く作品が多く残されています。1点のみならず、同じテーマや同じ構成の作品を複数残しています。



66.



103.



73.



81.



70.

4. 映画、文学、小説に影響を受けた作品

絵画だけでなく、「詩人になりたかった」という彼女は、映画、文学、音楽など、多くの文化的な表現に触れてきました。

彼女が好んだのは、人気の話題作よりも、クラシックなもの、抒情的な世界がテーマの作品が多かったようです。

映画監督のアンドレイ・タルコフスキーの作品など、影響を受けた映画のシーンなどをモチーフした作品を残しています。



141.



150.



133.



135.

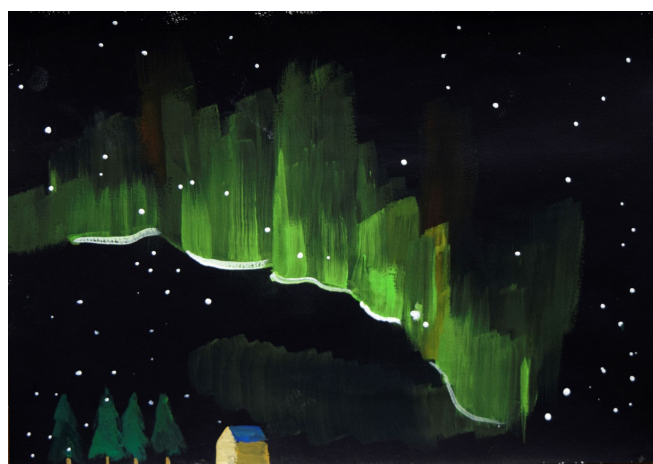
5. 夢の中の風景、憧れの風景、心象風景

残された彼女の作品の中には、同じようなシーンが何度も描かれています。それは、現実なのか、夢なのか曖昧です。しかしそれは彼女の憧れの風景、彼女の精神がその時向いていた風景ともいえると思います。

私たちにとってどこか既視感を覚えるその優しい風景は、観るものに懐かしさを感じさせ癒してくれます。



5.



7.



12.寺地はるな著「大人は泣かないと思っていた」装丁
集英社



13.



2.



10.

5. モデル、人物のポートレート

黒坂さんは、外出先のカフェで出会った親子に、「私は画家なのですが、お子さん絵を描きたいので、写真を撮らせてください」とお願いするなど、彼女の美的感覚にあった人に出会うと積極的に声をかけていたといいます。

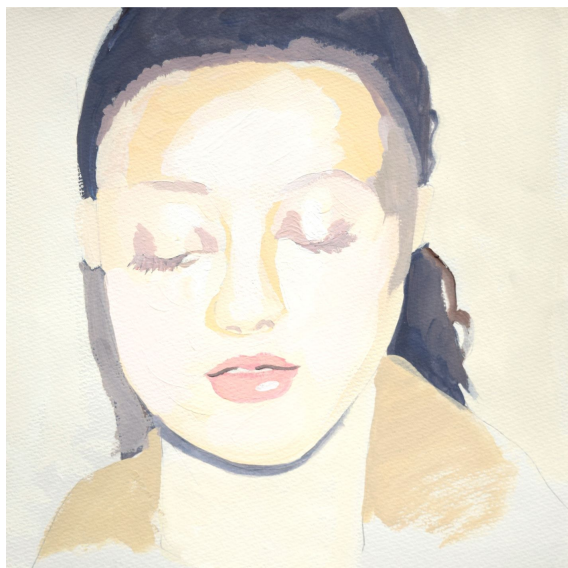
雑誌のモデルや、SNS でみつけた子供の顔など、その顔に魂を吹き入れて描いています。



29.



112.



118.



114.

6. 静物

桃、いちじく、いちご、花、テーブルの上のパンなど、数々の静物画を残しています。そのものの形というよりも、自然光を感じるその存在、その背後にあるストーリーを描いていたように思えます。



153.



154.



157.



155.



140.



158.

7. 被写体となった黒坂麻衣

本展では、黒坂麻衣さんを被写体として撮影し、作品とされた、2名の写真家の作品をご紹介します。



清家正信 プラチナプリント



齋藤陽通 鹿の人

8. 絵本作家とのコラボレーション「グノコッチョウのたまご」



絵本、児童文学を手掛ける馬場めぐむさんと黒坂麻衣の作品のコラボレーション作品、「グノコッチョウのたまご」。

黒坂麻衣作品を古くからコレクションしてくださっていた馬場さんは、黒坂さんとも親しく、いつか一緒に絵本が出したいね、と話しておられました。

今回、黒坂さんの作品にあわせて「グノコッチョウのたまご」というショートストーリーを書き下ろしていただきました。

会場でお配りするリーフレットに掲載されています。

【グッズ販売】

イラストレータとしても活躍していた黒坂さんの作品は、本の装丁やハンカチ、T シャツなどにも使われています。

本展では、Swimmie ハンカチ 10 種、CANALIZET シャツ限定 2 枚、ポストカードの販売もさせていただきます。

黒坂麻衣

1986 年青森生まれ

2008 年多摩美術大学絵画科油画専攻卒業

2013 年 11 月 作品集「Silent Landscape」刊行（浅草橋天才算数塾発行）

2019 年 5 月 逝去

Solo Exhibition

2012 年 個展「IMAGES〜ここではないどこか」浅草橋天才算数塾

2013 年 個展「Silent Landscape」浅草橋天才算数塾

2017 年 個展「Wind」YUKI-SIS

2018 年 個展「Memories of my life」YUKI-SIS

2020 年 個展「彼女がみていた風景」YUKI-SIS

2021 年 個展「夢の中の風景」スパイラルガーデン（企画 YUKI-SIS）

（お問合せ）

主催：YUKI-SIS 寺嶋 由起

東京都中央区日本橋本町 3-2-12 日本橋小楼 202 03-5542-1669

info@yuki-sis.com <http://yuki-sis.com>

3-2-12 # 202, Nihonbashi Honcho, Chuoh-ku, Tokyo

103-0023, JAPAN +81(0)3 5542 1669